



かけがえのないもの～人権作文を読んで～

朝読書の時間を利用して、全校で人権作文（法務省と全国人権擁護委員連合会が主催した全国中学生人権作文コンテストの入賞作品）を読みました。

この日読んだのは「かけがえのないもの」という作文で、岐阜県の中学3年生の生徒が書いたものです。小学校時代に教科書に「死ぬ」と書かれた経験にもとづいた、非常に胸に迫り、かつ考えさせられる文章でした。

その中には、自由に意見を言える権利と、匿名で感情をぶつける暴力は別物だという、まさに今世の中で問題となっているネット上での批判による人権侵害にも関連するような主張もあったのですが、私はまたそれとは別に、以下の部分の主張が心に残りました。



「かけがえのないもの」挿絵より

思い出すと心は曇るけれど、私は今も学校が好きだ。友だちと過ごすことが好きだ。しかし以前と変わったことがある。それは**すべての人から好かれる自分ではないでもいいと思えるようになった**ことだ。社会が広がり、つながる人が増えれば相性の悪い人と出会うこともあるだろう。しかし**私には、私のことをかけがえのない人だと言ってくれる人がいる**。辛いときに寄り添ってくれる人もいる。**その人たちの笑顔を守るためにも、私は私らしくいたい**と思う。

中学生の今の時期、人間関係で悩みを抱える生徒も多くいます。具体的なトラブルがあれば、それは顕在化するのですが、今の人間関係（友だち関係）を維持したり、周囲の目を気にしたりするあまり、自分の本心を隠してストレスをためている生徒もいるでしょう。

学校では生徒の「ありのままの自分」を尊重し合えるような人間関係づくりを支援していきますが、成長を期待するあまり生徒たちにさまざまな働きかけをする我々大人（教師・保護者）も、まずは「そのままの貴方を十分に愛している」というサインを送りたいものです。そうして、生徒の「かけがえのないもの」（＝自分らしさ・ありのままの自分を認めてくれる人）を大事にしていきたいと思います

生徒の感想より

- ・ 私もたまに友達と接しているときについつい荒い口調になってしまうときがあります。相手を傷つけてしまわないように言葉や文字の使い方に責任を持ち、注意して生活したいと思いました。
- ・ 普段何気なく思ったことを何でも言いがちだけど、言う前によく考えて、相手が言われて嬉しいなと思うような言葉をたくさん伝えていきたいです。
- ・ 「みんなに好かれようとしなくていい」というのが心に残りました。私は嫌われるのが怖くて言いたいことを我慢してしまうけど、そういう風にしなくていいということがわかりました。
- ・ 「自分の心も体もかけがえのないものだから」がとてもグッときました。別にすべての人に受け入れてもらえなくてもいいということは私も思いつかなかったので心にとめておきたいです。
- ・ 一番そばで支えてくれる、家族や友達、先生の存在はやっぱり大きいと思いました。自分にこういうことがあったら、怒ってくれる、心配してくれる友達を大事にしたいと思いました。

地域に元気を

一関市児童生徒学生顕彰 藤沢町いいね大賞表彰

2月1日（土）一関市児童生徒学生顕彰式が、翌2日（日）には藤沢町いいね大賞表彰式が行われました。ともにスポーツや文芸などの分野で顕著な成績を収めた個人・団体の日頃の努力を称えるものです。生徒たちは立派な態度で参加しました。

生徒たちの頑張りを地域の皆様に知って頂くとともに、生徒たち自身が地域の一員であることを自覚する良い機会になりました。

一関市児童生徒学生顕彰

橋本駆丸 千葉史和(東北中学校ソフトテニス大会3位等)

藤沢町いいね大賞

佐々木蓮(「受信環境クリーン図案コンクール」東北協議会 佳作)

渡部愛莉(愛鳥週間ポスターコンクール・国土緑化運動ポスター原画岩手県コンクール入選)

小野寺桜菜(人権作文コンテスト岩手県大会奨励賞)

星 聖愛(地域安全ポスターコンクール特選)

金野 晴(一関市交通安全ポスターコンクール 最優秀賞)

遠藤彩姫(一関市交通安全ポスターコンクール 最優秀賞)

千田理紗(一関市交通安全ポスターコンクール 最優秀賞)



「勉強しなさい！」は逆効果？

先週までの期末テストを目標に、家庭学習強化週間としてご家庭での励ましと見守りをお願いしていましたが、お子さんの取り組みの様子はいかがだったでしょうか。

なかなか机に向かう様子がないと、つい、「勉強しなさい！」ときつく言うてしまうことはないでしょうか。しかしそう言っても、なかなか言う通りにはしてくれない難しい時期かもしれません。

「中2問題」というものがあるそうです。中1から中2になる頃に、学習に取り組む意欲が弱まり、中だるみや学習離れといった状況に陥りやすいということです。実際に東京大学とベネッセの共同研究によると、中1から中2になるときに家庭学習時間が減少する生徒が5～6割いるという調査結果も出ています。

ちなみに中3になると、またグンと家庭学習時間は伸びることが明らかになっています。また別の調査では、中3になると「勉強しなさい」と声かけをされない生徒の方が家庭学習時間が25分ほど長いという結果も出ています。かといって2年生のときに学習を怠っていればその分力は着きませんし、家庭学習の習慣を新たにつくるのも苦勞することになります。何とか「中2問題」を回避しつつ、生徒たちが自主的に机に向かうようになる働きかけはないのでしょうか。

なぜ中3になると、勉強を頑張るのか。それは受験を意識するからでしょう。目標が具体的なイメージを持つので、自律的に勉強ができるのだと思います。それならば中3にならなくとも、将来の目標のイメージを具体的にイメージする手助けをしてやることであれば良いのではないのでしょうか。具体的には、お子さんと「将来や進路のことについて話をする。」こと。実際に先ほど紹介した調査でも、そうした話を家庭でしている生徒の方が家庭学習時間が長い、という結果が出ています。

期末テストが終わり、再び目標を見失って学習へのモチベーションが下がっているかもしれない今、将来や進路について、ご家庭で話題にして頂ければと思います。

